

清水町総合計画審議会 会議録（要約）

日時 令和6年6月3日 18時00分～19時30分

場所 清水町役場庁舎2階 庁議室

【出席者】

委員：五十嵐卓、長谷川弘、内田得裕、矢萩利浩、下村武史、佐々木隆徳、鈴木堅士郎
樋口貴弘、横山麻悠美、

（欠席：氷見隆雄、小室慶輔、鈴木愛）

アドバイザー：石山大介、小野寺俊之介

事務局：企画課長（鈴木聡）、企画課長補佐（吉田寛臣）

企画統計係長（青砥大将）、同主事（木村翔）、同主事（有田芯）

傍聴者 0名

記者 0名

1 開会

2 町長あいさつ（町長）

清水町総合計画審議会の開催にあたりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

本日の総合計画審議会は、改選後、初の会議となります。新たに委員となられた皆様には新たな視点から本町のまちづくりに対するご意見をいただくとともに、引き続き委員をお願いする皆様には、これまでと同様、忌憚のないご意見をいただきたいと考えております。

また、十勝総合振興局地域創生部地域政策課長「石山」様、十勝毎日新聞社新得支局長「小野寺」様におかれましては、アドバイザーをお引き受けいただきありがとうございます。それぞれの知見に基づき本町のまちづくりへのアドバイスをお願い申し上げます。

これよりご審議いただく「人口ビジョン・総合戦略」につきましては、令和2年度に町民の皆様・議会・行政が共に知恵を出し合い創りあげたものであり、加速する人口減少時代への対応を考える上での重要な計画だと認識しております。

先日、人口戦略会議が発表した消滅可能性自治体には本町は含まれていませんでしたが、人口減少は、全国的な課題として益々重要なものとなっております。

昨年の人口動態としては、社会増減でマイナス8名、自然増減でマイナス150名の結果となり、人口減少となっておりますが、子育て施策の充実や移住政策の推進などを図り、社会増減がプラスになるよう努力して参りたいと考えております。

本日は、人口ビジョン・総合戦略の具体的な施策につきまして、令和5年度における事業評価に対する検証となります。農業・商工業・保健福祉・子育て支援 他、幅広い分野ではありますが、皆様が日頃から感じている率直なご意見を頂戴したく、ご審議のほどよろしくお願いいたします。

以上、簡単ではありますが挨拶とさせていただきます。

3. 委員及びアドバイザー紹介

4. 事務局紹介

5. 会長・副会長選出

推薦無し 事務局（案）会長 五十嵐卓委員 副会長 長谷川弘委員 で承認。

6. 会長あいさつ

本日はお忙しい中、清水町総合計画審議会にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

これより町より諮問されます「清水町人口ビジョン・総合戦略における令和5年度実施事業評価」につきまして、皆さんの活発なご意見をいただき、本日の審議会を円滑に進めて参りたいと思いますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

7. 諮問

（町長）

清水町人口ビジョン・総合戦略における令和5年度実施事業評価について、貴審議会の意見を求めます。

（町長から会長へ諮問書を手渡し）

8. 協議事項

（五十嵐会長）

協議事項に入らせていただきます。

協議事項

清水町人口ビジョン・総合戦略における令和5年度実施事業評価について

① 令和5年度人口動態について

② 令和5年度実施事業評価検証について

【鈴木課長より総合計画審議会について説明】【青砥係長より①②一括説明】

（矢萩利浩）

実施事業評価P21の交通弱者対策事業について、今後の方向性は理解したが、例えばライドシェア等の導入についての検討は行っているか。

（企画課長）

全国的にライドシェアも広まりつつあるが全面解禁になってはいない。十勝のハイヤー協会としては現状、導入について反対の姿勢を示している中でタクシー会社と連携や調整が必

要である。今後については、特に御影地区はライドシェアも有効と考えているが、町内に1つしかない交通事業者であるタクシーも重要であるため、連携をして進めていきたい。

(下村武史)

7 ページマイホーム支援金について町内事業者の活用が少ないとのことだが、町内と町外事業者の割合を教えてください。新築住宅の建設現場をみると、町外の事業者が多いと感じるため、インセンティブの検討は良いことかと思う。少しでも町内事業者に仕事が回るよう施策を進めていただきたい。

(企画課長)

詳細な数字を今は持ち合わせていないが、町内事業者は1割程度であるため、町内業者を使ってもらえるような施策について検討していきたい。

(長谷川弘)

先ほどの人口動態の説明でもあったが、清水町に多くの外国人が転入してきており、商工会ではインバウンドに力を入れていく考えである。町全体でも一緒に外国人の流入を考えてほしい。また、外国人に限らず、道内、道外においても他町より手厚い子育て支援等についてうまく情報発信し、清水町に来てもらいたい。

2点目としては、P 1 2 で先ほど企業版ふるさと納税の説明があったが、個人版ふるさと納税はどれくらいあるか。芽室町では約4億5千万円、別海町が100億円以上もあると聞いている。ふるさと納税をもっと増やしていくことはできないか。

(企画課長)

インバウンドの関係については、農業実習生が多く200人以上の実習生が清水町にきていると認識している。生活スタイルの違いや言葉の壁について、考えていく必要を感じている。

町外へのPRについては、保育園留学を通じた子育て施策の周知に力を入れていきたい。

企業版ふるさと納税では学校備品の整備や救急活動機材の整備等を行った。企業版については現状6年度までの制度となっているが、今後の推移を見ながら周知を行っていきたい。

個人版ふるさと納税については、令和5年度が約2億7千万円、令和4年度は約1億9千万円となっている。今年度については、体験型の返礼品等も数多く掲載し、返礼品数を増やす取り組みや、掲載しているECサイトの数を増やし、より多くの人の目につく取り組みを行っており、令和5年度を大きく上回る寄附の受け入れを目標としている。

(内田得裕)

先日、清水高校の振興会の会議に出席したが、いろいろ工夫をしていて、とても良い学校であると感じている。清水高校が魅力的であることで中学校にも良い影響を与える。子どもたちが元気になる施策をお願いしたい。

(企画課長)

町としても今以上に魅力的な学校となるよう積極的に振興していきたい。

(佐々木隆徳)

先ほどの事業評価を聞かせていただいたが、町内でたくさんの支援や補助があり、至れり尽くせりと理解したが、今回の資料で初めてわかることが多いと実感している。各支援について知らない町民がたくさんいると思ったので、どのように周知していくかが重要である。清水町の魅力を町内外に向け発信することで、さらに良い町になると思った。

(企画課長)

情報についてはHP等により発信しているが、まだまだ充分とはいえない状況である。今年度からLINEの活用や地デジ広報も使いながら広く皆様に伝わるようにしていきたい。

(鈴木堅士郎)

先ほども話があったが、知っている事業を少なかった。農業を経営しており肥料の補助等をもっているが、大きい農家が優先的にあたっているイメージがあり、小さい農家への補助が少ない。設備投資等も行いたい、金銭的な理由により難しいことも多い。経営規模に関わらず農業向けの支援を強化してもらいたい。

(企画課長)

農協と協議しながら、持続的に農業が発展できるよう、支援について引き続き検討をしていきたい。

(樋口貴弘)

先ほど説明のあった保育園留学については新聞等でも大きく取り上げられているが、留学者は具体的にどこからきているのか。何が良くて清水町に来ているか把握しているか。

(企画課長)

保育園留学については、リモートワーク等を活用し1週間～2週間清水町の子育ての環境を体験していただく事業となっている。しみずこども園の施設の広さや、自然のなかで遊びを体験できるところが良いと聞いている。首都圏からの留学が多く、今後も利用者の分析を行い、関係人口の創出や移住につなげていけるよう進めていきたい。

(横山麻悠美)

現在御影地区で子育て中だが、学校の手厚さやこども園の対応の良さを感じる。

以前男子図鑑で結婚対策を行っていたかと思うが、その後どうなったのか。実施事業評価の中でも見直しが必要となっていたので、今後の展開についてお伺いしたい。

また、先日高齢者と触れ合う機会があり、車がないとどこへも行けないので運転に心配が

あっても免許の返納は難しいと言っていた。交通弱者の足の確保がもっとできればと思う。

（企画課長）

男子図鑑については2冊発行し結婚支援を行っていたが、コロナの関係や、行政がどこまで介入できるかという部分について、事業を中断し今後の結婚支援について検討を行っているところである。農業分野については、担い手対策コーディネーターで結婚支援を行っている。帯広信金とおびしんキューピッドの連携をしており、更なる周知を図りたい。

交通対策は財政的な問題もあり、コミュニティバスは買い物銀行バスと統合となる。できる限り交通の利便性が高まるような施策を考えていきたい。全てをカバーすることは難しいかもしれないが、町民にも理解をしてもらいながら、進めていきたい。

（矢萩利浩）

新紙幣発行に伴う渋沢セレモニーを開催すると聞いているが、町民への周知等はどうなっているか。渋沢栄一とのつながりは道内で一番強いと思っている。機運の醸成が必要ではないか。

今後の経済の循環に関する部分で2点お話をさせていただきたい。1点目が日高山脈襟裳十勝国定公園に清水町も協議会に参加していると思う。一定のイニシアチブを取りながら、観光を盛り上げてもらいたいと思うが、どのような政策を行っているか。

2点目に道の駅整備の計画があったと思うが、現在の動向についてお伺いしたい。

（企画課長）

渋沢関連については7月3日に新札発行となるため、記念式典とセレモニーを行う。6月の広報やチラシ、HP等で周知をさせていただき予定である。セレモニーもより多くの方に参加いただきたいと思っている。渋沢栄一翁をより知っていただき、清水町の郷土愛醸成につなげていきたい。

今後の渋沢栄一関連事業については、町民ツアーや寿光寺でのイベント等を進めていきたいので、ご興味ある方はご参加いただきたい。

本町も協議会に参加し、国立公園化への要請活動等を行ってきた。芽室岳等の観光資源をどのように活用していくか内部で引き続き検討していく。協議会を通したPRについてもあわせて行っていきたい。

道の駅整備については、事業構想を立ち上げたが、その後いちまる店舗の閉鎖や体育館建設問題があり、優先順位の問題で中座している状態である。優先的に解決する必要のある事案の方向性が見えてきた段階で、改めて考え方の整理をしていくこととなる。

（五十嵐会長）

特に御影地域においてはアイスホッケーを通じ、人口増加につながっている。中学生や高校生だけで留学してくる子どももいるため、その部分のフォローを町にもお願いをしたいと思う。

(企画課長)

多感な年ごろであるため、里親として受け入れている家庭と連携をとる必要がある。今後については、教育委員会と協議しながら、考えていきたい。

(十勝総合振興局地域政策課長)

地域の取組みを伺える貴重な機会である。このような計画は行政の指針となるとも重要なものであり、本日のような事業評価については大切である。事業評価はわかりやすくまとまっている。総合戦略に記載のある一部事業については、別の機会に改めて町と意見交換をさせていただければと思う。

(勝毎新得支局長)

旭山に移住を検討している外国出身の方に移住の理由を聞いたときに、流れる時間がゆっくりで自然が豊かと言っていた。勝毎としても清水町の良いところをPRし、発展のお手伝いできたらと思っている。

(長谷川弘)

先ほど体育館の話もしたが、令和8年体育館建設着工に向けて、現在市街化区域の変更を行うことと思うが、駅前再開発についてもこれから考えていくとのことで、変更する市街化計画を駅前再開発を見越した内容とするなど、横のつながりをもった計画策定を行ってほしい。

(企画課長)

町内の市街化区域の区域指定見直しを進めている。体育館の建設予定地に限らず、住宅の貼り付けの状況や公営住宅の在り方等も踏まえて進めている。地域指定については各関係課長も入った中での本部会議で協議しており、庁内でも連携しながらすすめていくので、ご意見については担当課と共有させていただく。

9. その他

「清水町過疎地域持続的発展市町村計画」の計画変更について青砥係長より説明

質疑・意見等無し

10. 閉 会

(五十嵐会長)

本日、委員の皆さま、また、アドバイザーの方からいただきました貴重なご意見につきまして、今後のまちづくり反映していただければと思います。

本日は長時間にわたり、ご審議いただきましてありがとうございました。